



プロダクトデザイン研究室 1

Product Design Lab. 1

木村 元彦

KIMURA, Motohiko / Associate Professor

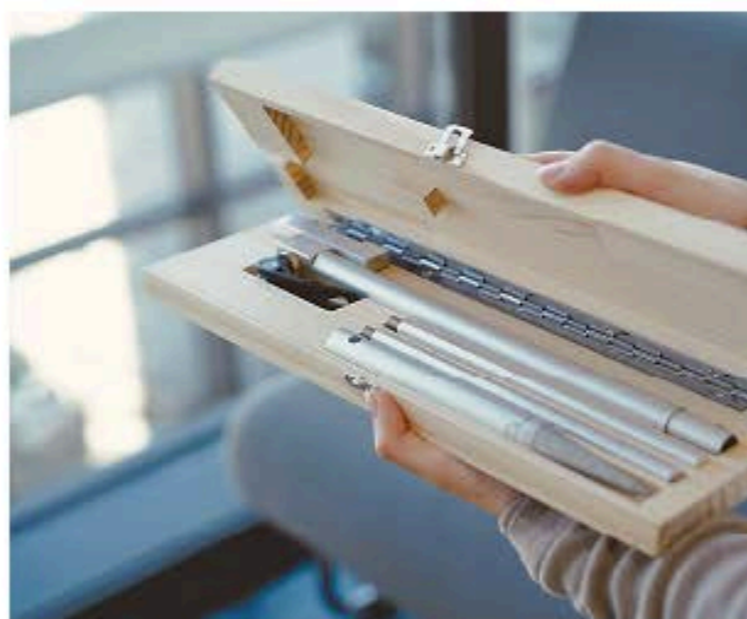
キャンプシーンでデジタルイラストを楽しむためのタブレットスタンドの提案

Proposal of Tablet Stand for Enjoying Digital Illustrations in Camping

デジタルイラスト制作はペンタブレットの普及により一般的な趣味として広まっている。くわえて近年場所を選ばず描くことができるモバイル型タブレットも増えてきているので、例えば私の趣味でもあるキャンプと組み合わせれば面白いのではないかと考えた。

実際ネット上で仲間を見つけ、一度集まってキャンプをすることになった。その際、自然の中で絵を描く新鮮な体験がとても好評であり、もう一度したいという声もいただいた。

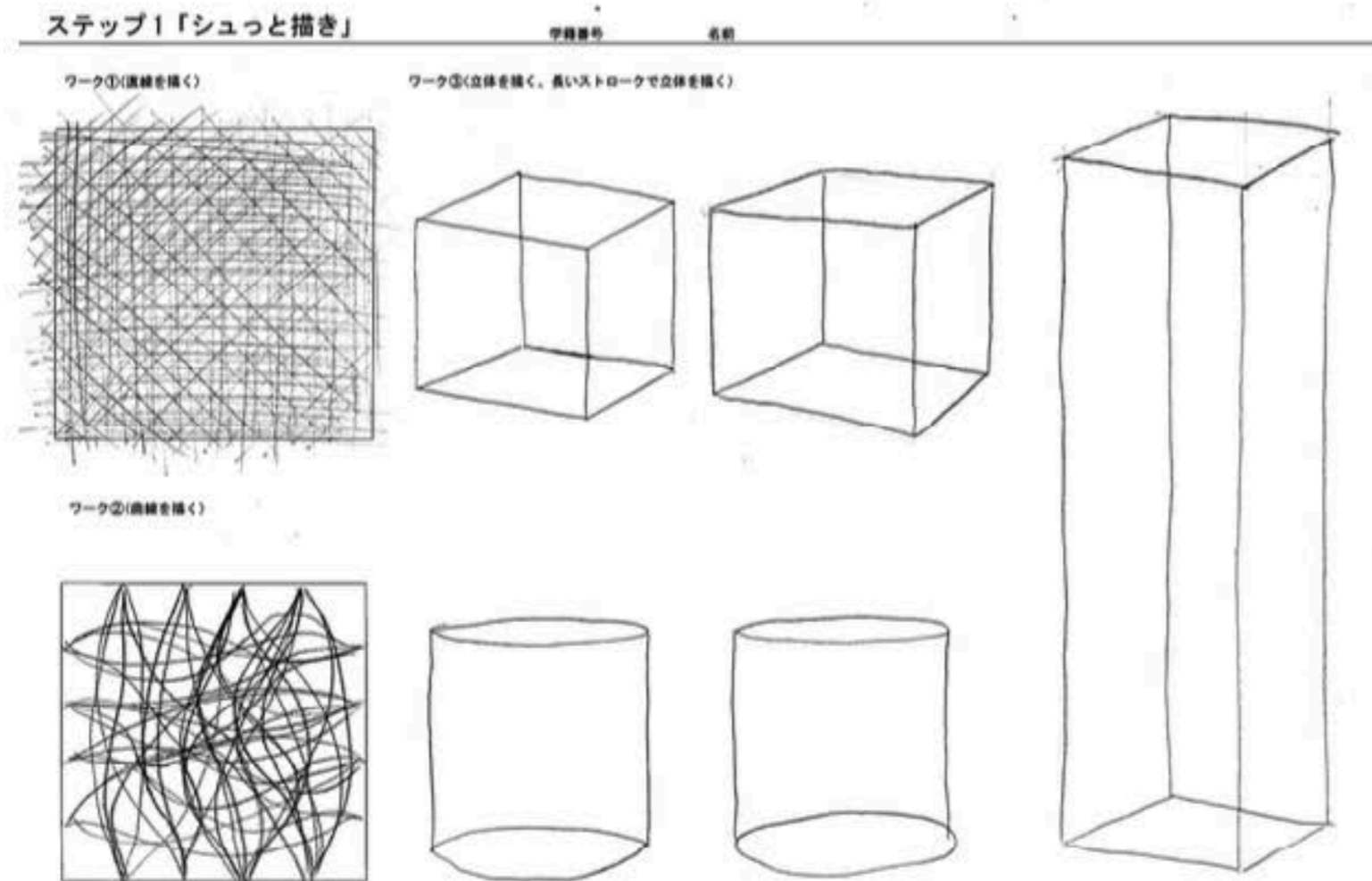
そこでさらに快適に描きやすい環境は作れないかと思ひ、キャンプという雰囲気を壊さず持ち運びに長けたコンパクトなスタンドを考案した。



植村 風太
UEMURA, Futa

デザインスケッチに対する苦手意識を軽減するトレーニング方法の研究 空間デザイン学科の1回生を対象とした試み

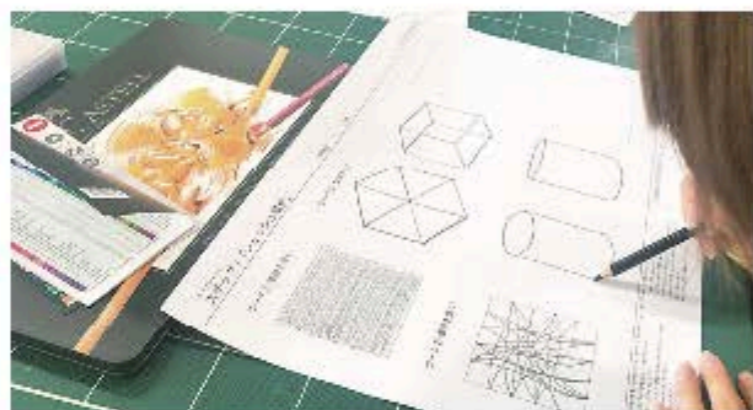
Study on Training Methods to Reduce Awearness that One is not Good at Design Sketch:
Trial Use on First-Year Students in Department of Design and Architecture, OIT



空間デザイン学科の1回生の中には、スケッチに関する実技試験が無いいためか、デザインスケッチに対して苦手意識を抱いている学生が少なからず存在していると考えます。そこで、現在出版されている絵画やデッサンに関する書籍や、YOUTUBEに投稿されている動画を調査しました。

芸術大学向けの高いレベルを目指す書籍が多い中、スケッチを「考えを相手に伝えるための手段」として捉えているものに着目しました。

調査結果を踏まえ、デザインスケッチのトレーニングメニューの目標を設定し、空間デザイン学科の1回生に取り組んでもらう内容について計画しました。実際にメニューに取り組んでもらい、その成果やヒアリングで得られた情報をもとにブラッシュアップを行い、最終的なトレーニングメニューの構成を検討しました。メニューは、ステップ1からステップ7までの全7回分で、線の引き方から立体と人を含む1つのシーンが描けるところまでサポートするものです。



大橋 浩平

OHASHI, Kohei



トライバルタトゥーをモチーフとした、日常で身に着ける装身具の提案

Proposal of Accessories Designed with Motifs of Tribal Tattoos

私はニュージーランドの先住民「マオリ族」のトライバルタトゥーに惹かれた。

実際のタトゥーは皮膚に彫る、入れると表現されるが、日本ではネガティブな意見が多い。

そこで、実際にタトゥー皮膚に彫るのではなく「身に纏う」ことはできないかと考えた。

模様を纏う様々な方法を検討した結果、タトゥーの形状に布を切り抜いた装身具を身に着ける方法を提案する。

服を着るような身に着け易さを実現したいと考え、腕を袖口に通すような簡単な装着方法にしている。

この方法ならネガティブな感覚をあまり感じることなく、トライバルタトゥーの複雑な美しさを感じることができると考えた。



加藤 健太

KATO, Kenta

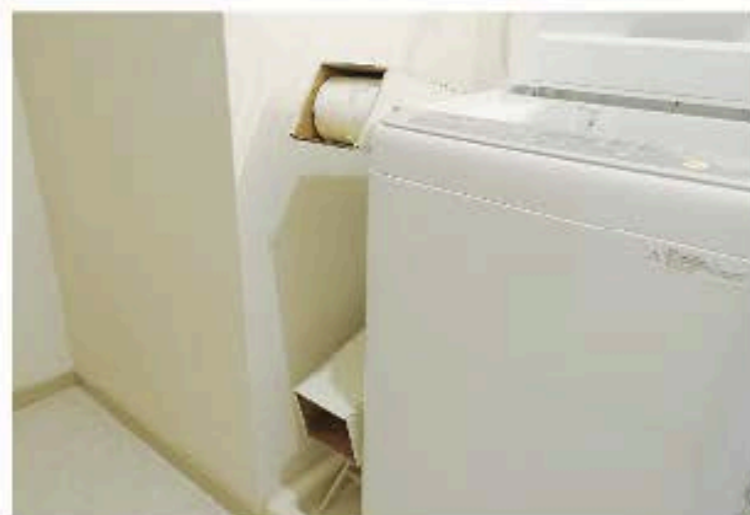
家庭内の隙間に注目した収納の提案

Proposal of Storage Furniture to be Put in Gaps



家庭内の様々な場所に隙間が存在する。例えば、「冷蔵庫と壁の隙間」、「棚と天井の隙間」等があり、私たちは隙間があると、何気なく物を収納するスペースとして利用している。隙間の大きさに合わせた、いわゆる隙間収納家具により収納すると、たくさん物を収納できるが、収納方法としての面白さに欠けると感じた。

そこで、収納方法に遊び心を加えたトイレトペーパー収納を提案します。洗濯機と壁の隙間に注目し、トイレトペーパーを入れると弧を描くように収納され、内側は洗剤ボトル等を収納できる、新しいカタチをした収納家具である。



黒田 直希

KURODA, Naoki

